

共生社会の実現にむけて ～障がい者のはたらく場から考える～

2024年12月6日(金) 10:40-12:20

皆さんは、学生会館をはじめキャンパス内の清掃をされているオレンジのユニフォームの方々をご存知でしょうか。本学の特例子会社(※)である株式会社早稲田大学ポラリスでは、障がいとともに生きる社員が一人ひとりの個性や適性を生かし、学内の様々な業務に従事しています。ダイバーシティ推進室では、2019年より毎年、ポラリスの取り組みを紹介し、障がい者と社会との共生のあり方やその社会的意義を考察する機会として、ポラリス・学生交流授業を企画提供しています。今年も社会科学部の寺尾範野准教授をファシリテーターに迎え、障がい者の就労や日常生活にスポットを当て、全学部生・大学院生向けにオンライン公開講座を実施します。ぜひご参加ください。

(※) 特例子会社:障がい者の雇用促進および安定就労を目的として事業主(大学)が設立した子会社

参加費無料
・
要事前申込

オンライン
開催

寺尾先生からのメッセージ:

2006年に国連総会で「障害者権利条約」が採択され、「障がいの有無にかかわらず誰もが自立した生活を地域で営む権利を有する」という共生社会の理念が示されました。この条約を2014年に批准した日本でも、障害者差別解消法の制定・改正など、障がい者の社会参加に向けた法整備が進められてきました。しかしながら、障がいのある人となない人のあいだには、日常生活や意識の面で今も大きな隔たりが存在しています。本講座では、早稲田大学ポラリスではたらくみなさんのお話を聴くことで、障がい当事者の方々の日々の仕事について知っていただきたいと思います。そのことは、共生社会についてのより深い理解へと私たちをいざなってくれるでしょう。

ポラリスからのメッセージ:

早稲田大学にポラリスが設立されて17年、現在約30名の障がいのあるポラリススタッフが大学で働いています。そう聞いて、皆さんはどのような姿をイメージなさるでしょうか？ 障がいにも多様性があり、各人の自己理解や他者との関係性、生活への影響は人それぞれです。近くに理解者や伴走者、相応の成長を期待して接してくれる存在があるかどうかで、人の人生は文字通り大きく変わります。各スタッフの家族や友人、支援者に限らず、すべての人はスタッフたちとの関わりを通して“佳きもの”をもたらすと同時に受け取る機会を持っています。まずは「はじめの一步」！ スタッフたちの言葉に耳を傾け、知ることから始めてみませんか？

司会・ファシリテーター:

早稲田大学
社会科学総合学術院
准教授 寺尾 範野



プロフィール:

一橋大学社会学部卒業。英国カーディフ大学Ph.D.取得。共立女子大学准教授を経て、2018年4月より現職。イギリス福祉国家の形成過程を社会思想史の観点から研究している。共著に『平等の哲学入門』(社会評論社、2021年)など。

日時 2024年12月6日(金)
10:40~12:20

(ポラリス事業説明・社員スピーチ・質疑応答など)

開催形式 オンライン開催(Zoom)

対象 本学学生(学部・大学院)

事前申込 下記ウェブサイト内イベント掲載ページより事前にお申し込みください。

<https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

【特別な配慮が必要な方へ】特別な配慮(PC文字通訳による情報保障など)を希望される方は、11月15日(金)までに diversity@list.waseda.jp へご希望の内容をお知らせください。事前にご相談のうえ、可能な範囲で対応させていただきます。



お問い合わせ先

早稲田大学ダイバーシティ推進室 Mail: diversity@list.waseda.jp